

サッカー場人工芝改修にかかる環境対策について

項目	現時点での対応方針（案）
人工芝片や充填チップの流出防止	<ul style="list-style-type: none"> ・排水路にフィルターやトラップ等を設置する予定 ・人工芝の周囲（外側）には充填チップのないものを緩衝帯として採用し、内側のチップが側溝に流出しにくい仕様とする
排水設備の流出防止	<ul style="list-style-type: none"> ・集水枡や排水路にメッシュ状のフィルターやトラップ等を設置予定
防球ネット下部にネットや板状の堰など	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインを踏まえた上で、設置の必要性を検討中 ・東西北側は、地盤がサッカー場より高いため人工芝片がサッカー場外へ飛び出るとは想定していない
雨水の流出	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー場の排水計画： <ul style="list-style-type: none"> ①豪雨時でも側溝からあふれさせない ②降雨後早い時間で利用可能な施設機能とする ・サッカーコート内の排水施設：想定雨量 90 mm/h（3年確率の10分降雨強度で計算） ・現時点の排水計画：サッカー場内の雨水を2系統に分散し排水（中央広場側とどんぐり広場側へ） ・どんぐり広場側の排水を広場内の池で貯水し、排水流出のピークをずらすなど
流末河川への影響	<ul style="list-style-type: none"> ・現在予定している元旧川につながる農業用水路改修では、10年確率の60分降雨強度、50 mm/hの雨量に対応できる改修計画 ・天然芝から人工芝への改修により、雨水流出量は増える（流出係数：0.1→0.8 サッカー場で0.14 m³/秒、公園全体で0.032 m³/秒） ・元旧川への影響：0.3% ・「鳥取県林地開発許可に係る技術基準等運用規程」では「開発行為に伴う放流先河川等のピーク流量が増加するか否かの判断は、増加率が1%」とされており、人工芝改修による元旧川への影響は少ないと判断 ・農業用水路改修での流域面積には総合公園全体の排水も含まれて計算されており、水路改修でカバーできると考えるが、より万全を期すためサッカー場内の排水量の調整を検討している

<p>利用者からの流出防止対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用に当たってのルールを作り広報し、予約時にも周知、依頼する ・サッカー利用者については、人工芝内は専用のシューズを履くよう、チーム内で周知徹底してもらう ・その他利用者は、使用後に出入り口で人工芝を落としてもらう ・出入り口にエアブラシやローンブラシの設置などは、ルール作りの際に検討していく ・防球ネットを設置するため、出入り口をできるだけ限定する
<p>積雪時の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・除雪をする場合は、人力による除雪のみとし、決められた場所に雪を集積し、融雪後は混入物をまとめて回収・処分する
<p>日常的な点検</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営・管理については別途検討 ・敷設から3年ぐらいは人工芝片がちぎれ出やすいため、1～2カ月に1回のブラッシングとスイーパー、排水溝の芝片の除去を行う ・大雨後の側溝等の点検や清掃を行う ・その後は年1～2回程度のブラッシングで倒れた人工芝を起こし、定期的な点検を行う
<p>人工芝の更新</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の使用で、10年～15年後を目途に張替を予定 ・処分に当たっては、産業廃棄物として法令遵守を徹底するよう処分業者に指示する ・他の施設へのリユース等についても検討する